

第3学年 社会科学習指導案

日 時 平成23年10月28日(金) 5校時
学 級 3年B組
(男子16名、女子18名、計34名)
場 所 一関市立千厩中学校3年B組教室
授業者 教諭 秋尾 幸治

1 単元名 『1 暮らしを支える経済』 「4 ものの価格の決まり方」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領に示された「(2) 国民生活と経済」の「ア 私たちの生活と経済」の内容のうち、「ア 市場の働きと経済」を扱い、身近な消費生活を中心に経済活動の意義や価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について学ぶ。さらに、資本主義の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて学ぶとともに、社会における企業の役割と責任についても考える。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の義務、労働組合の意義及び労働基準法などの学習内容とも関連付けている。

以上のことから本単元は、普段何気なく行われている消費活動を振り返りながら、市場経済の基本的なしくみや現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考える単元である。

(2) 生徒について

生徒たちは、小学校で、消費者の立場に立った営業、商品の流通、リサイクル等について学んでいる。また、価格の決定については、価値のある物は価格が高いということはある程度理解している。一方で需要と供給のバランスの中で価格が決定していることはあまり理解しておらず、生産者や販売者の利益のために価格があるにとらえている生徒が多い。また、公民的分野は身近な事柄で扱う分野にもかかわらず、専門的用語が多いためか、地理や歴史分野とくらべ、難しいと捉えている生徒が多い。そのため自信がないのか「黙って聞き、ノートをとる」生徒が多く、一部の生徒の積極的な発表によって展開される授業になる傾向にあるので、身近な事例を取り上げながら、生徒の体験や考えをできるだけ多く発表させるように留意して指導している。

(3) 指導について

本単元は、経済の学習の導入にあたる場面である。生徒は、日常生活において消費者としての意識はあっても生産に関わる体験が少ないために、経済活動を多面的にとらえることは難しいと考えられる。そこで、身近な消費生活から具体例を挙げて、市場経済の仕組みや流通の働き、生産の仕組みや消費者の権利と保護について考えさせ、理解を深めさせたい。また、個人・企業・政府のつながりを経済活動全般を通してとらえさせるとともに、企業の役割と社会的責任についても考えさせたい。

3 社会科における「活用を意識した学習活動」のとりえ

社会科においては、以下のような学習活動を、「活用を意識した学習活動」ととらえる。

- (1) 資料から課題解決のために必要な情報や事実を読み取る学習活動
- (2) 読み取ったことをもとに、社会的事象の意味・意義を考察し判断する学習活動
- (3) 社会科における用語や概念を使用し、社会的事象について説明する学習活動
- (4) 考えたことを実社会、実生活と関連づけ、自分の考えを伝え合う学習活動

4 単元の指導目標

(1) 【社会的事象への関心・意欲・態度】

個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、経済活動について考えようとする。

(2) 【社会的な思考・判断・表現】

社会における企業の役割と社会的責任、社会生活における職業の意義と役割および雇用と労働条件の改善について、多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動のあり方について、さまざまな立場から公正に判断できる。

(3) 【資料活用の技能】

個人と企業の経済活動に関するさまざまな資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を資料から読み取ったり、図表などにまとめたりすることができる。

(4) 【社会的事象についての知識・理解】

経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産のしくみのあらましについて理解することができる。

5 単元の指導計画（10時間扱い）

章 節	時	学習内容	評価計画				「知識・技能の習得」の場面	「活用を意識した学習活動」の場面
			社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解		
第1章 暮らしを支え た私たちの 暮らしと 経済	1	暮らしをみつめて	◆経済との出会いについて、身近な例を示そうとする。			◆経済とは何かについて理解し、その知識を身につけている。	○財とサービスを身近な例をもとに分類する。	
	1	消費と暮らし		◆家計から企業・政府へのお金の流れを理解し、支払いのしくみと手段を判断できる。		◆さまざまな支払いの手段とその問題点について理解できる。	○収入と支出の種類を調べる。 ○支払い手段について調べる。	★消費支出のグラフを読み取り、最近の消費支出の傾向について、まとめる。
	1	消費者の自立	◆消費者としての立場から、消費者問題に対する関心が高まっている。	◆自立した消費者になるために必要なことを考え、説明できる。			○消費者の権利と保護のしくみについて調べ、まとめる。	★企業と消費者の果たすべき責任について、自分の考えをまとめる。
	1	ものの価格の決め方 【本時】		◆需要と供給と価格の関係について考え、説明できる。	◆需要と供給の関係をグラフに表し、均衡価格を求めることができる。		○需要と供給の関係から価格が決まることをグラフから読み取り、理解する。	★需要と供給の関係をまとめる。 ★身近な事例を通して価格の決定について考えることができる。
	1	市場は万能ではない		◆寡占と独占が価格や消費者に与える影響を考察している。		◆寡占と独占、公共料金について、特徴や種類を説明できる。	○独占価格と市場で決定しない価格について調べる。	★独占や寡占が進むと消費者にどのような影響があるのか考え、まとめる。
	1	企業はさまざま	◆資本主義経済と企業のはたらきについて、考えようとしている。			◆企業のはたらきや種類、流通のしくみを理解している。	○企業の種類やはたらきについて理解し、流通経路の違いから価格への影響をまとめる。	

第1章 暮らしを支え た私たちの 暮らしと 経済	1	会社のしくみと役割	◆企業の社会的責任について、意欲的に考えようとしている。			◆株式会社のしくみと株価変動について理解し、その知識を身につけている。	○株式会社のしくみについて、資料から読み取り、まとめる。	
	1	資金の貸し借り		◆身近な金融機関をあげながら、金融と銀行のはたらきについて説明できる。		◆身近な銀行や日本銀行の役割について理解し、その知識を身につけている。	○金融の働きと銀行の役割について調べる。 ○日本銀行の役割を理解する。	★金融のはたらきを図を見て、重要語句を使い、まとめる。
	1	変わる産業			◆「産業別就業者数の割合」のグラフを使い、産業構造の変化を読み取りまとめている。	◆経済のソフト化・サービス化の意味を理解し、産業構造の変化を説明できる。	○産業構造の変化をグラフから読み取る。	★国内産業の空洞化について、自分の考えをまとめる。
	1	資源をむだなく	◆農林水産業の役割について考え、食料や環境問題に対する関心が高まっている。	◆日本の資源環境問題、循環型社会の実現について、自分の考えを発表できる。				○環境問題とその取り組みについて調べる。

6 本時の指導

(1) 目標

- ① 需要と供給と価格の関係について考え、価格が変動すること説明できる。
- ② 需要と供給の関係をグラフに表し、均衡価格を求めることができる。

(2) 本時の構想

身近な農作物を例に入荷量と価格の変化を読み取り、供給量が上がった月に価格が下がったことに気付かせる。また、需要・供給曲線の読み取りを通して、需要と供給と価格の関係について学ぶ。さらに、身近な物を例に供給量、需要量を変動させ、その中で価格が変動するメカニズムを考え、需要量と供給量という語句を使い説明することで、本時の「活用を意識した学習活動」としたい。また、実生活の中で本時に習得した需要と供給の関係で決まる価格について生徒から具体例を挙げさせ、説明させることで本時の学習内容をさらに深めたい。

(3) 本時の評価規準

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒の手だて
社会的な思考・判断・表現	需要と供給と価格の関係について、グラフを操作しながら、変動のしくみを考え、説明できる。	需要と供給と価格の関係について考え、価格が変動すること説明できる。 評価①	身近な例をもとに価格の決め方について理解する。
資料活用の技能	需要と供給の関係をグラフに表して、均衡価格を求め、その時の縦軸、横軸の長さの意味を読み取ることができる。	需要と供給の関係をグラフに表し、均衡価格を求めることができる。 評価②	需要と供給のグラフの数量的変化に着目させ、釣り合っているところに気付かせる。

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点 (◎)、活用場面 (★) 習得の場面 (○)、評価 (■)
導入 5分	1 本時の導入	1 価格が変化する商品と変化しない商品とに分ける。 ・青果 ・缶ジュース ・新聞	◎具体物を提示し関心を持たせる。
	2 学習課題の設定	2 学習課題を把握する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【学習課題】 価格が変化する商品はどのようなしくみで、価格が決まるのだろうか。</p> </div>			
展開 40分	3 予想	3 課題について予想し、発表する。	
	4 供給量と価格の変化	4 きゅうりの月別入荷量と価格の変化を読み取る。	○月別入荷量が多いと価格が下がることをつかませる。
	5 需要量と供給量の関係と価格の変化	5 需要曲線・供給曲線それぞれのグラフを作り、価格がどのように決まるか考える。	○市場価格と均衡価格を理解させる。 ■グラフを作ることができたか (評価②)
	6 需要供給曲線进行操作しての価格変動のメカニズムの考察	6 供給量、需要量を変化させ、価格の変動を考える。 ・きゅうり ・ゲーム用カード	○グラフを実際に動かし、価格の変動をつかませる。 ◎グループごとにグラフを変動させ価格の変化を考える。
	7 価格の変化、決定についてのまとめ	7 価格の変化や決定についてまとめ、発表する。	★■需要量と供給量を使い、本時の学習をまとめる。 (評価①)
	8 価格の変化について考えの深化	8 実生活の現象について、本時の学習をもとに考える。 ・閉店間際の惣菜 ・中古のゲーム	★身近な事例を通して、価格の決定について考える。
終結 5分	9 自己評価	9 自己評価し、用紙に記入する。	◎自己評価カードを使う。
	10 次時の予告	10 価格が変化しない商品の価格決定に疑問を持たせ、次時につなぐ。	◎導入で分類した価格の変化しない商品に注目させる。